

「プロジェクト・オブ・ザ・イヤー」から

——アフガニスタンで実施されているNGOプロジェクトの紹介

ペシャワール会 「緑の大地計画」

自給自足の農村回復

アフガニスタンで長年、無料の医療を提供していることで知られている「ペシャワール会」だが、自給自足の農村回復を目的とした「緑の大地計画」も推進しており、現地の人から大きな信頼を寄せられている。

「いのちの基金」で食糧配布

ペシャワール会では、昨春秋

からの空爆時に、多くの国内避難民を支援するため緊急支援を呼びかけ、「アフガニのいのちの基金」キャンペーンを行った。

この基金によって、カブールとジャララバードおよび周辺地域の避難民に食糧を配布。現地で国連機関や国際支援団体が本格的に食糧支援を開始したことから、緊急食糧支援は2月に終了した。

そしてペシャワール会では、支援の手が届きにくい農村地域を中心に、人々の生活と復興を支援する「緑の大地計画」を実施に移した。

緑の大地を蘇らせる試み

アフガニスタンは1979年の旧ソ連侵攻以前は、豊かな農業国だった。しかし、戦乱とたび重なる大干ばつで国土は

破壊され、荒れ果ててしまった。同国を復興するには、「緑の大地」を蘇らせ、豊かな農業を取り戻すことだとペシャワール会では考えた。

そこで、最も干ばつ被害の大きかった同国東部のダラエ・ヌール渓谷をモデル地区とし、この計画に着手した。同渓谷で、ペシャワール会は内戦中も継続して医療活動を行っており、住民との信頼の絆も強い。

また、同渓谷では水源確保のため、2000年7月からカレーズ（伝統的な地下灌漑水路）の復旧、井戸建設を手がけている。この事業によって、渓谷中流域に住む推定2万人が離村を免れたという。

地域社会の総合開発を目ざして

ペシャワール会では今年2月、診療所近くに約8000㎡の農地を借り受け、試験農場を整えた。長期計画のため日本人スタッフ数名が常駐。乾燥に強い品



農業を指導する日本人指導員

種の作付け、土壌の改善、農具の改善などに力を尽くし、生産量の増加に取り組んでいる。

また、農業と並行して畜産業の振興計画も進めている。耕作に必要な家畜、アフガニスタン人の生活に欠かせない乳製品を確保するための乳牛を農家はほとんど所有せず、農民の生活は圧迫されている。品種の選定、飼料の確保、増産の方法など細かな計画が立てられている。

このほか、ケシ栽培に代わる換金作物の研究など事業は多岐にわたり、地域社会の総合的な開発を目ざしている。不毛の地を肥沃な農地へと蘇らせる壮大な試みに、大きな期待が寄せられている。



灌漑用井戸の建設